

タイトル 左前下行枝にCypherを2個留置、拡張後にIVUSがトラップされ
抜去困難となった場合どうするか

症例 78歳男性。急性冠症候群で入院し、肺炎合併のため保存的加療後、
冠動脈造影を行った。結果、左前下行枝#7 75%、#8 90%の所見を認めた。6Fr
radial approachでPCI施行。Cypher(2.5-18mm, 2.5-23mm)を留置した後の確
認IVUS途中で、ステント内でIVUSがstuckして抜去困難になった。

原因 Cypherのoverlap部位のステントストラットの浮きの部分に、IVUSの
Guide wire export lumenが引っかかった。

実際の対処

Femoral arteryから2本目のガイドカテを挿入し、IVUSの脇を通してもう一
本ガイドワイヤーを挿入した。そのワイヤーに沿って新しいバルーンカテー
テルを挿入し、トラップされた部分で拡張したところIVUS抜去が可能だっ
た。

今後の予防、対策

今後DESの使用頻度が高まるにつれて、複数のステント使用が増えると考え
られるが、ステントoverlap部位の段差には注意しなければならない。

Overlap部位の段差を残さないようにしっかり後拡張すべきである。

また基本的なことであるが、IVUSカテーテルはイメージコアが入った状態
の方が芯が入ってしっかりする構造のため、抜去時は必ず、イメージコアを
戻して操作しなければならない。